# TSUMUGI通信　VOL.65

2025年８月1日

**一般社団法人地域連携ネットワークみえ**

三重県伊勢市御薗町長屋１９６３

㈱ｴﾎﾞﾘｭｰｼｮﾝ内（☎0596-63-5080　FAX0696-65-7006）

E-mail　info@3c-mie.net　　https://3c-mie.net/

　夏休みの季節です。
正式には夏季休業といって学校教育法で定められたもののようです。 なんと明治の時代から始まっています。
そもそも夏季休業のあるわけは、夏の暑さを避け心身を休ませるためとされていますが、明治の頃の8月の最高気温が28℃～29℃という記録からみると、最近の体温を超える猛暑報道は脅威であり、過去踏襲型で制度の維持をしていくこともどうなのかな、と考えてしまいます。 最近は、登校日もない、朝のラジオ体操もないところが多いようで、何かさみしい気がします。
　さて、今年も半期が過ぎましたが、**ネットワーク会員のみなさんのマッチング**により、いろいろな活動がなされました。
今回は、そうした取り組みをご紹介します。

## 三重県立看護大学のフィールドワーク

昨年に引き続き、三重県立看護大学の教授（会員）の依頼により学生のみなさんのフィールドワークをお手伝いしました。
12名の学生のみなさんが6名づつ2班に分かれて実施。
先発組は鳥羽市にある障がい者支援事業を運営する株式会社アクアス/支援事業所コラボで受け入れをお願いしました。
アクアスは当ネットワークの法人会員で毎回協力をいただいています。

まずは、オリエンテーションでコラボってどんなところかを説明。

その後、別の場所に移動して水福連携作業を体験しました。
作業は、牡蠣のロープから釘を抜くお仕事でした。

＜学生のみなさんのコメント＞　―抜粋―
○　障害を持った人と一緒に作業するのは難しいそうだなと思っていましたが、たくさんのお話しをしてくれて楽しかったです。
○　作業を体験してみて、見た目以上に複雑で集中力や丁寧さが必要なことに気づきました。普段この作業をされている方々のすごさを実感し、とても貴重な体験でした。

○　利用者さん一人ひとりの特性や体調の変化に寄り添いながら、成功体験や安心できる環境を提供しようとする姿勢が印象的でした。

後発組の6名は、三重県が設置した三重県身体障害者総合福祉センターで受け入れていただきました。
当センターは、肢体不自由など身体障害者や難病の方に対して各種リハビリテーションを実施されています。ほかにもスポーツ・レクリエーションなどのサービスがあります。

施設見学の後、利用者との交流（頸椎損傷者の社会参加について当事者と対談）や自動車訓練（講義、訓練車両の見学）を行い、福祉用具の講義、見学とともに自助具の作成（実習）を行いました。

＜学生のみなさんのコメント＞　―抜粋―
○　訓練用自動車に乗せていただき操作の難しさを実感しました。動かない体をサポートする機能に感動しました。

○　脊髄損傷の方のお話しを伺ったり、補助具の体験や自助道具の作成など貴重な体験をさせていただきました。　○　この経験を無駄にせず活かしていきたいと思います。

## 鳥羽商工会議所が初動救護養成講座を開催

鳥羽商工会議所（会員）の主催により鈴鹿医療科学大学教授（会員）を招き初動救護を学ぶ講座が開催されました。
これは、鳥羽市内にあるホテルの従業員のみなさんを対象に、宿泊客の万一の健康上のトラブルに対応しようとするものです。
もちろん社員のみなさんは、医療行為は出来ませんから、救急車が到着するまでの間、いち早く応急の処置ができるように救急救命学科の教授から講義とともに実技を学んでいくというものでした。

心肺蘇生の胸部圧迫の実習

宿泊業のみなさんが対象ということで、客室やトイレの中、宴会場、お風呂場といったシチュエーションの異なる場所でのトラブルに対応できるように各場面で指導を受けられました。 そのため実技は商工会議所の会場だけでなく、鳥羽ビューホテルや鳥羽シーサイドホテルに出向き実施されました。

人の搬送は、何もないととても重いです！
右の写真は、あおむけで喉に嘔吐物がつまらないように横向けにする実践。

上の写真で身に着けている赤いプロテクターは、喉に詰まらせた食べ物を吐き出させる訓練を行うものです。
背中を叩いたり腹部を突き上げたりして、上手に救護が出来るとダミーで詰まったものが飛び出します。
右の写真も同様です。
単におじさんが抱きついているのじゃありません。

大学がかかわってホテルの従業員さんを対象に初動救護を学ぶのは全国的に初めてのことだと思います。
三重県のホテルでは宿泊者が万一のトラブルに陥った時、救護の知識を持った従業員が配置されているというのは、観光政策上も大きな要素となるのでないでしょうか。 講座を修了した受講者のみなさんは、その証として赤いバッチをつけています。

## 度会郡4町情報交換会が錦地区で開催！～防災について現地の実態を視察

ロシア極東のカムチャツカ半島の沖合で起きた巨大地震では、ロシアで最大で 6 メートルの津波が観測され、日本でも各地で警報が出され、熊野市では避難時に車で転落するなど不幸な事故も報道されました。
海岸沿いの地域では、津波の恐ろしさを知っているからこそいち早く避難行動が取られています。
先月下旬には、定例の度会郡 4 町情報交換会で大紀町の錦地区を訪問し、防災に向けての現地視察を実施したところでした。

昭和19年東南海地震による惨状

現在の穏やかな町の風景

上記の写真にある昭和19年の津波は 6.5m で、64名の犠牲が出ています。
錦地区では30か所の避難所があり、各地区のすべての世帯が5分以内に逃げられるようにされています。
左の写真にある避難棟も2棟あり、役場の錦支所も高台にあり避難所となります。

普段は風光優美な海が突然牙をむくことを忘れないことです